

にかほ市の

都市ガス①

にかほ市ガス供給事業の歴史と概要



今こそ・ガス

停電時：ガステーブルで炊飯したおにぎりを食べた。
灯油不足：居間のガストーブで一家全員暖をとった。

そんな「あたたかい」幸せをお宅にも。

古くから象潟地域・金浦地域は水溶性天然ガスの存在が確認されました。当初は石油目的であり、また天然ガスの需要もなく活用にはいたりませんでした。ガスの利用が始まったのは昭和20年代後半からです。25年に秋田県が天然ガスの鉱床の開発を企画し、試掘に成功。29年に象潟地域で、32年に金浦地域でガスの供給事業が開始されました。仁賀保地域では良好なガス井が見つからなかつたため、家庭燃料の主流は薪炭でした。しかし、昭和30年代に薪炭高騰により入手困難となり、より安定した燃料としてガス供給の要望が高まりました。そのような中、帝國石油から原料ガスの供給が可能となつたことから、36年に事業が開始となりました。

この背景のもと、ガス事業を公営で行つてゐる自治体は減少していきます。平成13年3月末で全国68あつた事業者は22年3月末では30になりました。県内では男鹿市、由利本荘市、にかほ市の3事業者です。

1

国では昭和40年代からの石油危機を経て、エネルギー供給を石油系重視から、技術革新を背景に、多角化を推進。

原子力や天然ガスの導入を進め、石油に大きく依存する構造からの転換へ。これにより緩和も進められていました。

その一方で、原料の天然ガス輸入価格の高騰、オール電化等との競争の結果、家庭用の販売量は減小傾向にあり、

自由化の範囲が拡大し、規制緩和も進められていきました。

熱量変更作業と 都市ガス製造所

日本ではガスの原料が多种存在していたため、大手都市ガス会社を除いて供給するガスの熱量が違つていました。にかほ市においても、金浦地域・象潟地域と仁賀保地域は異なるカロリーのガスを供給しています。

しかし、国内では大手ガス会社がすでに高カロリー化に移行しており、ガス機器メーカーの機器製造も高カロリー対応に重心が移つています。

このような流れの中、国の指導のもとに策定された「IGF 21計画」(※1)において、平成22年までに全国11種の低カロリーの都市ガスグループを、天然ガスを中心とした高カロリーへ統一することを計画。それを受け、合併前から旧町単位で高カロリーガスへの統合について調査・検討が進められます。

そうして平成18年5月に金浦臨海工業団地内にガス製造所が建設されました。そこで高カロリーガスの製造を開始し、同年9月から11月までの熱量変更作業で、各需要家の機器調整を行い、にかほ市のガス事業の高カロリー化が完了しました。

にかほ市ガス水道局の現状について

現在は都市ガス製造所で購入した液化天然ガスとプロパンガスを原料に都市ガスを製造して、仁賀保・金浦・象潟の供給区域へ送っています。原料については価格が世界情勢により変動するため、価格が上昇すると経営を圧迫する原因になります。年々原料単価は高騰しており、加えて、新たに設備投資した製造所や熱量変更作業にかかる経費も大きく、経営を圧迫しています。さらにガスの需要も大きくなり、経営を圧迫しています。

ガス水道局ではそのような皆さんの生活を快適にするために安心で安定的な供給を目指し、業務を行つて

(※1)
IGF 21計画
1990年1月
に通商産業省資源エネルギー庁
により提案された
『Integrated Gas Family 21計画』を
受けて日本ガス協会及び日本ガス石油機器工業会が策定。「お客様の立場に立つた都市ガス業界の健全な発展」を目的に高カロリー化への統合を推進する計画。

都市ガスの年表

昭和29年	象潟地域で供給開始
昭和32年	金浦地域で事業開始
昭和36年	仁賀保地域で事業開始
昭和45年～	石油危機（オイルショック）
平成2年	「IGF 21計画」策定※1
平成17年10月	にかほ市誕生
	都市ガス製造所建設・開始
平成18年6月	製造所完成
9月	熱量変更作業開始
11月	熱量変更作業終了 ガスグループ13 Aとなる



都市ガス製造所でのLNG受け入れ作業